

JASMA 会報

2021年1月発行（季刊）一般社団法人日本縫製機械工業会

CONTENTS

新年ご挨拶	1
年頭所感	2
2020年度第2回共通基盤ネットワーク研究会開催	3
第41回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定	3

新年ご挨拶

一般社団法人日本縫製機械工業会
会 長 眞壁 八郎



明けましておめでとうございます。

令和3年の年頭を迎えるに当たり、皆様には希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、日本始め世界各国で新型コロナウイルス感染症拡大の歯止めがきかず、これまでに経験したことのない一年となりました。

経済活動や日常生活の制約は、アパレル業界、百貨店・小売業、飲食業、宿泊業、旅行業など様々な業種の市場規模を縮小させました。新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動推進の相反する課題に取り組んだ一年となりました。昨年12月には改正予防接種法が成立し、ワクチンの有効性や安全性が確認されれば国民が無料で接種可能になるなど新型コロナウイルス感染症の脅威を抑え、経済活動の再開が期待されています。同時に、「新しい日常」の実践によりテレワークの活用など我々はこれまでの経済活動や日常生活から新たな対応も考えざるを得ないと思います。

さて、今年の国内景気は、昨年5月の緊急事態宣言解除後に景気持ち直しの動きがみられたものの、昨年11月からの第3波新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、新型コロナウイルス感染症前の水準に戻るには相当時間がかかる見込みです。ワクチン接種効果による経済活動の回復、昨年から延期された東京オリンピック・パラリンピック開催が新型コロナ禍での初の世界的イベントとして成功することで経済復調の起爆剤となることを念じております。

一方、世界景気は、中国経済が回復している状況であるものの、米国や欧州の第3波新型コロナウイルス感染症拡大やアジア・新興国での経済活動優先による新型コロナウイルス感染症拡大が懸念されます。また、本年1月就任するバイデン米国大統領の米中摩擦への対応や国際社会への対処方針変更に伴う経済政策、昨年11月の中国・韓国との初の経済連携協定となる「地域的な包括的経済連携」（RCEP）締結、本年1月の日本・英国EPA発効と英国・欧州連合通商協力協定の合意にも注視する必要があります。

縫製機械業界においては、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大やSDGs「持続可能な開発目標」の浸透によるアパレル製品販売の不振の影響により、マスク・防護服の特需はあったものの、昨年の工業ミシンは大幅な生産調整となる一方、家庭用ミシンはコロナ禍の中での「巣ごもり需要」に支えられ生産が追い付かない状況がみられました。

本年は、工業用ミシンではネット販売の進展によるアパレル市場の回復・拡大、家庭用ミシンではものづくりを見直す気運の継続・醸成に期待したいと思います。当業界としては、働き方改革への対応や企業変革を図るためにもIoTやデジタル技術の活用がより一層重要となります。なお、米国・中国貿易摩擦や米国の利下げに伴う新興国通貨への影響には引き続き十分注意を払うべきだと考えます。

令和3年（2021年）の十二支（じゅうにし）は「丑（うし）年」です。丑年は、「我慢の年」、「芽が出る前触れの年」といわれており、これまでとは違う流れが起こる年と考えられています。新型コロナウイルス感染症への対処法や新しい日常が定着し経済活動が滞ることがないことを願っております。

このような状況を踏まえ、当工業会は次の取り組みを主に実施いたします。

一つはJIAM 2022 OSAKA「国際アパレル機器&繊維産業見本市」です。

昨年5月開催予定を延期いたしまして、会期を2022年11月30日（水）～12月3日（土）、場所はインテックス大阪4号館、5号館、6号館Bとなります。本見本市は、「日本の最新技術を発信する場」であり、「課題解決やカイゼン活動に取り組んできた匠の技術」と「最新技術」を融合・協働することで、新たな付加価値を生み出す次世代の製品やシステムをご覧いただける場となることを「新しい日常」の中で目指します。開催日程延長にも拘わらず継続出展された企業様、ご事情により出展をキャンセルされた企業様も12回目となるJIAM 2022 OSAKAにご期待ください。

昨年10月より、実行委員会を中心に、テーマ、セミナー及び主催

者企画の再検討を行っております。引き続き、縫製機械業界の皆様からの積極的な参加に加えて、アパレル・繊維業界そして関係官公庁・団体の皆様方からのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

二つ目は、家庭用ミシンを使った『ものづくり』の普及促進に関することです。その事業の中心となる第41回「ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」は、学校の一時休校に伴う授業時間の制約を受けた影響もあり、応募校数、応募作品が前回より減少しましたが、いずれも素晴らしい出来栄の力作やアイデア溢れる個性的な作品となり、マスクやエコバッグなど世相を反映した作品も多数となりました。関係された先生方、学校関係者、ご賛同いただいた皆様方のご協力に深く感謝いたします。

表彰式は、来る3月6日（土）にオンライン併用で開催することとしておりますので、多くの方々の参加をお待ちしております。私共としては、今後も本コンクールが、家庭科教育におけるミシンを通じた我が国『ものづくり』文化のすそ野拡大、並びに将来のアパレル・ファッション・繊維産業を担う人材の育成に寄与していくものと期待しております。

三つ目は、IoT、AI、ロボット、ビッグデータの活用に加え、新しい日常の中でのコネクテッド・インダストリーズやDX（デジタルトランスフォーメーション）への対応です。

当工業会の「共通基盤ネットワーク研究会」の3年目は、アパレル、副資材、プリント、CAD/CAM、ミシン業界など関係者にお集まりいただき、縫製工場を取り巻くさまざまなデータ利活用の参考となるご講演を専門家の方々からお聞きして、諸課題を抽出し、研究テーマを考えることとしております。これまで取り組んできた課題を含めまして、CAD/CAM間のように、ミシンなど縫製機器間での接続に必要となる要件抽出が重要となると考えております。

最後になりますが、私共としては、本年も、会員企業間のコミュニケーションの更なる充実を図りつつ、経済産業省のご指導のもと、関係諸団体とも連携を密にし、当工業会の着実な運営と発展に向けて努力してまいります。

令和3年が新型コロナウイルス感染症対策が充実し、災害のない穏やかな年となるよう祈念するとともに、皆様方のご健勝と益々のご活躍、ご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感

令和3年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスが全世界に激震をもたらした一年でした。新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、健康面や生活面などで影響を受けておられる方々に、心からお見舞い申し上げます。また、産業界の皆様からは、医療・生活物資の増産など、様々な形で貢献いただいております。改めて敬意を表し、感謝申し上げます。

この未曾有の危機を乗り越えるため、私たちは、生活様式のみならず、産業構造や社会システムを転換させていかなければなりません。これは大変なことであると同時に、大きなチャンスでもあります。特に、「グリーン社会」への転換、「デジタル化」、サプライチェーンの再構築をはじめとする「レジリエンス」の強化について重点的に取り組んでいく必要があります。

昨年、我が国は「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言致しました。「グリーン成長戦略」に基づき、洋上風力産業、水素産業、自動車・蓄電池産業などの各分野での取組に加えて、各分野を支える産業機械・装置についても取組を進めていく必要があります。世界でも、先進国を中心に多くの国や地域がカーボンニュートラルの旗を掲げて動き出しています。カーボンニュートラルの実現は、経済成長の制約ではなく、むしろ成長戦略そのものです。あらゆる政策を総動員し、経済と環境の好循環を実現してまいります。

また、デジタル社会の急激な進展への対応も不可欠です。非接触や非対面といった「新たな日常」の拡大や、地政学的リスクや自然災害等の不確実性の高まりに対応し、我が国製造業の国際競争力を強化する観点からも、デジタル技術は一つの重要なツールです。

産業機械業界においては、昨年、様々なデジタル技術を活用した

経済産業省製造産業局

産業機械課長 玉井 優子

動きが見られました。製造現場へのロボット導入やIT活用による工場の自動化や遠隔監視の導入の加速に加え、立ち会いや据え付け業務のオンライン化、遠隔での機械の保守・予防保全サービスの提供、オンライン・ショールームやウェブ展示会の展開など、新たな可能性が広がりました。

また、近い将来、製造現場においても、5G等の通信技術の本格活用も見込まれます。生産ラインの柔軟性を高め、仮に不測の事態が生じた場合にも、製品の増産や代替生産等を容易にする可能性が拡大します。これを実現すべく、研究開発をはじめとした取組を進めてまいります。

さらに、コロナ禍を背景とした自動化・遠隔化へのニーズは、ロボットやドローンを取り巻く環境も大きく変化させています。従来の工場の人手不足や生産性向上に対応したロボット等のデジタル技術の活用のみならず、物流や小売業等でのロボット導入や、インフラ点検や離島物流、災害対応でのドローン活用など、新たな技術の活用場が拡大しています。より豊かな社会を実現していくためにも、ロボットを導入しやすい環境の構築や、セキュリティの確保されたドローンの普及を進めてまいります。また、「空飛ぶクルマ」についても、2025年の大阪関西万博での活用を目標に、制度整備や社会実装を進めてまいります。

今回のコロナ禍では、サプライチェーンの脆弱性が顕在化しました。第3次補正予算案で閣議決定された国内投資促進の補助金を活用し、生産拠点の集中度が高い製品などのサプライチェーン強靱化を進めてまいります。

さらに、米中の技術覇権争いを背景とした米中の輸出管理の動向も注視が必要です。産業界の皆様、タイムリーに情報を発信してまいりたいと思います。産業界の皆様におかれましては、自社の

サプライチェーン上のリスクの把握など、海外市場におけるビジネスが阻害されることのないよう万全の備えをお願いいたします。仮に、サプライチェーンが不当に分断されるようなことがあれば、経済産業省が前面に立って産業界の皆様をサポートしてまいります。

福島復興は、継続して経済産業省の最重要課題の一つです。昨年、「福島イノベーション・コースト構想」の中核となる福島ロボットテストフィールドが全面開所致しました。地域の新たな雇用や取引拡大につながり、ロボット産業・ドローン産業を育む拠点となるこ

とを期待しております。

日本の製造業は、急速に変化し続ける環境の中で、複雑で困難な課題に多く直面しています。しかし、それらに果敢に取り組みイノベーションを続けることで、成長を続けられると確信しております。引き続き、皆様の現場の生の声をお伺いし、それを政策に活かしていきたいと考えております。

本年が、皆様にとって素晴らしい1年となることを祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

2020年度第2回共通基盤ネットワーク研究会開催

本年度の第2回共通基盤ネットワーク研究会を2020年11月30日(月)、15時から17時20分まで航空会館(東京都港区新橋)でウェブ会議も同時配信して、以下の講演会を開催しました。

(1)講演「5G標準化とNTTドコモの取り組み」

講師 (株)NTTドコモ ネットワークイノベーション研究所
アーキテクチャデザイン担当 永田 聡(ながた さとし)氏

(2)講演「コロナ禍によるアパレル業界と縫製工場の変化と今後について」

講師 (有)シナジープランニング代表
坂口 昌章(さかぐち まさあき)氏

講演後は質疑応答、意見交換が行われ、参加者はウェブ出席も含め44名でした。



第41回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定

全国の小学生、中学生、高校生を対象に実施した第41回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは、応募校数は415校(前年459校)、応募点数は2,482点(前年3,161点)でした。厳正な審査の結果、入選作品などが次のとおり選ばれました。

入選作品表彰式は、2021年3月6日(土)、14時30分よりオンラインを併用し日本工業倶楽部(東京都千代田区丸の内)で執り行う予定です。なお、入選作品等の詳細につきましては、後日、会員及び報道機関向けにお知らせします。

1. 作品賞

- 最優秀賞 5点
- 優秀賞 26点
- アイデア賞 3点
- 佳作賞 36点
- 努力賞 199点
- 全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞 1点

2. ホームソーイング振興最優秀校賞

小学校、中学校、高等学校 各1校(計3校)

編集後記

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の中、新年を迎えることになりました。

先日、11都府県に緊急事態宣言が再発令され、昨年に引き続き新型コロナ対策の一年になると思われまます。皆様には健康を最優先にして日々を過ごして頂きたいです。新型コロナウイルスの一日も早い収束と今年皆様にとって明るく、希望に満ちた年になることを心からお祈り申し上げます。(K.M)

JASMA 会報

Vol.17 No.4 2021年1月25日発行

一般社団法人日本縫製機械工業会
発行責任者：湯原 孝志

〒105-0004
東京都港区新橋5-25-3 第2一松ビル2階
TEL. 03-6435-8190 FAX. 03-6435-8192

URL <https://jasma.or.jp>
Eメール info@jasma.or.jp

本JASMA会報は、当工業会ホームページに掲載しております。